

無人VTOL機による物資輸送プラットフォーム構築事業

スキーム

現状と課題

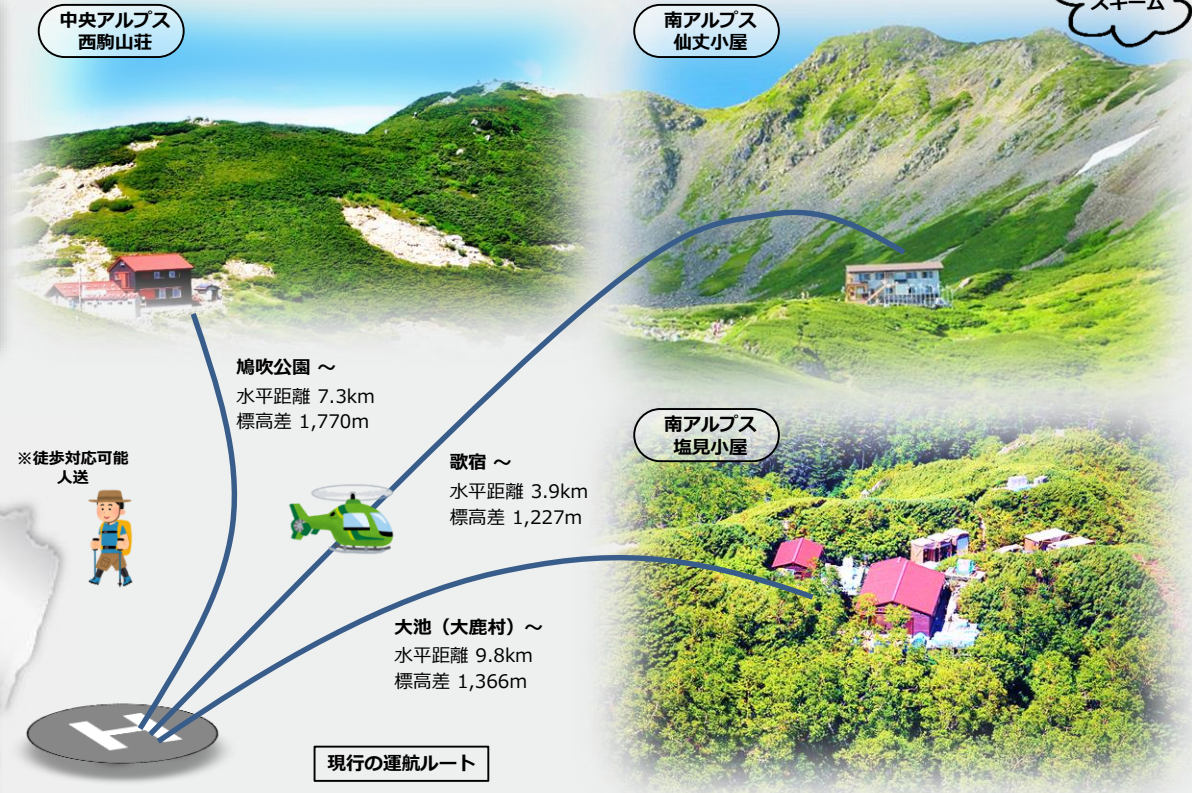
- ・近年のアウトドアブームを背景として、山小屋の利用人口は年々増加しており、それに伴う運搬物資の大容量化への対応が求められている。
- ・ヘリコプターの輸送に頼る一方で、送電線工事や公共事業の増加、パイロット不足等により、運航確保が困難な状況になってきている。

事業の方向性

- ・山岳特有の気象状況に適応し、長い距離と大きな標高差を安定して飛行できる民間ベースで開発した無人VTOL機を使い、山小屋への物資の輸送のための固定空路を構築する。
- ・各種ステークホルダーとの調整や法令に基づく許認可等の手続きにより、将来にわたって持続可能で効率的な輸送スキームを確立する。

目的/効果

- ・同様な課題を抱える全国の自治体や関係団体等への水平展開により、機体運行事業者の収益性と事業の安定運営基盤の確立に寄与する。



主な輸送品



※現状歩荷対応道標



開発機体



ヘリコプター輸送の現状

- 【3施設・年間】
- 上り：51便、物資重量21,400kg
- 下り：14便、物資重量 7,400kg
- 日数：14日間
- 1日平均輸送量：500kg×4便=2t

企業アライアンス

機体開発/運用 	Kawasaki Powering your potential	ルート開設 	ZENRIN Maps to the Future
通信/運行管理 	Tomorrow, Together KDDI	コンサル 	朝日航空株式会社 AERO ASAHI
気象 	JWA 日本気象協会	保険 	損保ジャパン SOMPO Innovation for Wellbeing